

1 学期終業式（7月20日）

7月に入り、全国各地で記録的な豪雨が発生し、島根県でも多くの方が被災されました。豪雨被害にあわれた方々に心よりお見舞い申し上げます。

ゴールデンウィークが明けた5月8日に、新型コロナウイルス感染症は法上の位置づけが季節性インフルエンザと同じ5類に移行しました。これに伴い、さまざまな規制が解除され、ようやく「ウィズコロナ」から「アフターコロナ」に転換しつつあります。

これまでコロナ禍で行えなかった様々な活動を、再開していくと同時に、コロナ禍で変化した学校生活の良いところ、例えばICT機器の活用や行事の精選等は今後も活かしながら、アフターコロナにおける新しい学校生活を模索していきたいと考えています。

本校最大の学校行事である農業祭は、昨年度まで入場制限をしてきましたが、今年度からは通常開催します。また、農業祭の初日は、本校創立90周年の記念式典を予定しています。多くの地域の皆様方を迎え賑やかな農業祭になればと楽しみにしているところです。あわせて、皆さんたちの活躍の場も地域に向けて活発になっていくことを期待しています。

1学期終業式にあたり、この1学期を振り返ってみると、皆さんの活躍を随所に見ることができともうれしく思っています。先ほど表彰伝達を行いました。部活動や農業クラブに関係した県大会での活躍、素晴らしいと思います。また夏休み中に開催される全国インターハイや全国総文祭、全国高校生そば打ち選手権大会に出場する皆さんのさらなる活躍を期待しています。

ここにいる皆さんは、入学当初からコロナ禍でいろいろ制約を受けながら、それでも「今できることを精一杯やってみよう」というスタンスで取り組んできたと思います。アフターコロナではいろいろな活躍の場がふえると思います。今まで蓄えてきたポテンシャルを発揮し、皆さん一人一人場面は違うと思いますが、新たな挑戦として自分が輝けるステージで活躍してほしいと思います。私は、生徒一人一人が輝き、活躍する学校にしていきたいと考えています。

そこで皆さんに、私がテレビドラマの中のあるシーンでのやりとりで印象に残っている言葉を紹介します。それは、『やれるだけやってみる』という言葉です。『ペンディングトレインー8時23分、明日君と』というドラマを見ましたか。いつもと変わらない一日を迎えるはずだったのに、偶然電車に乗り合わせた人々が車両ごと突如、見知らぬ未来の世界に投げ出されてしまう。そして、乗り合わせた人々との生きていくためのサバイバル生活が始まる。そうした不安の中、主人公の畑野役の上白石萌歌が発した言葉です。

皆さんがこれから何かを頑張ろうとするときに、とかく何か難しい物事に取り組む時には、これは自分には難しいからと弱気になったり、あるいは逆に絶対に結果を出してやると強気で挑んだりしませんか。しかし、弱気でなんとなく手を抜いてしまったり、強気で自分を追い込み過ぎてしまったりして、いずれもうまくいかないことがあります。そこで、皆さんには、「やれるだけやってみる」という気持ちで挑戦してくれたらいいなと感じます。

「やれるだけやってみる」の言葉にはその時の自分の最善を尽くすという意味が隠れていると思います。つまり、自分ができること、やってきたことを全て使って、全力を尽くすことが大切だと思います。ぜひとも新たな挑戦をしてください。そしてやれるだけやってみてください。応援しています。

明日からの夏休み、どのように過ごすかが、2学期からの生活に大きく影響してきます。3年生は、自分の進路を決める大切な時期ですから進路実現に向け精一杯頑張ってください。2年生は、部活動での新チームでのリーダーとしてチームをまとめてください。1年生は、高校生活にも慣れてきたと思いますので、これから何を頑張りたいか、打ち込めるものを見つけてください。夏休みをぜひ自分の成長のために計画的に活用してください。8月29日の2学期の始業式には、成長した皆さんの姿が見られることを期待して終業式でのあいさつとします。